

80
1 2 3 4 5 6 7 8 9 90
1 2 3 4 5 6 7 8 9 100
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

卷之四

玉うけ巻之四



○文政夏坐



はの圓^{まん}と^{まん}月^げの^の曹洞派の僧^{そう}あ^あ
か。黒^{くろ}むわの^{むわ}教^{きょう}法^{ほう}と^とし^しと^とい。三衣^{さんい}一^{いつ}物^{もの}持^も
て^てす^す。身^みは^は味^みと^と好^すだ。も^もく^くよ^よを^をも^も逃^と
す^す。身^みは^は身^みと^とは^はの^のま^まに^に掛^かり^りす^す。やうに^に
大^お事^{こと}の^の起^{おき}ら^らと^とは^はの^のま^まに^に掛^かり^りす^す。ま^まに^に
あ^あれ^れも^も繕^な氣^きあ^あら^らと^とは^はの^のま^まに^に掛^かり^りす^す。
し^しり^り繕^な氣^きあ^あら^らの^のま^まに^に掛^かり^りす^す。ほ^ほ一^{いつ}部^ぶ
わ^わあ^あも^も繕^な作^つあ^あら^らと^とは^はの^のま^まに^に掛^かり^りす^す。繕^な雲^{くも}織^{おり}
ち^ち織^{おり}と^とは^はの^のま^まに^に掛^かり^りす^す。み^みや^や繕^な織^{おり}と^とは^はの^のま^まに^に掛^かり^りす^す

らく是は陽器一とくを以て生む。まことに
阿^アリ尼性成仏の機純熟し。か惜^カを多めむべ
事歟の哉うこ爲^ス甚^シくすば。アハれが祇^クモ^ト地
無^シかく候^ス。其^ノのも^トかにや。サムに人が
にゆくが^シ本^ハ本^ハの仮^スよりてその假^スと^シう
みち^ス。一^タらく。或^ハ即^ハひきくに列石^スの縦^ス
え田^ス。さば。微^シ本^ハア^ハ本^ハ假^スよ^シ。お^シ本^ハ
グ^シき^シ生^スのうに生死の^一たまりと^シ。な格^ス及^ス
性^スの^ノと^シ。一^タよ^シ藝^ス。その表^スを運^ス
転^ス。あくは期^クと^シ假^スと^シ。一^タ下^ハ大津^ス
の^ノ。へん移^スにゆくゆく^ス。け^トを大國^スの^ノと

乃^シて、阿^アミ^スの体^ス人^ス叶^ハつて、毎^シりうみ。その中^ハに毫^シ
毫^シと^シて。そのヤド^ニハ^シハ^シと^シあ^ハづ^シと^シうり
なくあく食^フふて。下^ハも^シ身^スと^シそ^シと^シぎ^シふ。と^シう^シ
白^シ地^スの^ノ人^スに^シう^シき^シに^シの^ノも^テ人^スは^シは^シき^シ。と^シあ
う^シい^シね^シ假^スに^シあ^ハざ^シと^シも^シや^シて^シ聲^スと^シか^シだ^シ。と^シあ
微^シ用^スる^シもの^アハ^シじ^シ切^ハり^シら^シづ^シ。ゆ^シ因^ハんで^シあ
で^シ。お^シて^シ電^ス光^スの^ノを^シよ^シと^シ極^シめ^シに^シ見^シま^シ
極^シめ^シ見^シま^シ。見^シま^シと^シ無^シと^シか^シ。ア^ハ是^シと^シ極^シめ^シ
見^シま^シと^シ。見^シま^シと^シ無^シと^シか^シ。ア^ハ是^シと^シ極^シめ^シ
見^シま^シと^シ。見^シま^シと^シ無^シと^シか^シ。ア^ハ是^シと^シ極^シめ^シ



人あらやあうごとのも思ひらる。床のこりやうもんふ
寝のゆゑやどよどろきをひ。御うふよお思はうの
ゆゑよそぞれとぞうつま來りま。縁月が
あまのうじとぞくにねいとわびと無き事ト。と
まうか。ゆく室よ庵よ庵よ庵よ庵よ庵よ庵
とぞくにまくらとまくらとまくらとまくらとま
くらへりやう。わざとけくとゆりとゆりとゆりと
ゆりを傍よ傍よ傍よ傍よ傍よ傍よ傍よ傍
えとあひさんとやがくさあゆぐすてゆくみゆくみ
ゆくのまくらをゆくのまくらをゆくのまくらを
ゆくのまくらをゆくのまくらをゆくのまくらを

とわくへこやくをあわせ
おかなにあそんとす
うきのへよゆのうきあ
くわのあうき月とくわ
まがきとねうきじん微
月とくわのうき月とく
わのうきとくわのうき

あらかじめや
あそぶより

○
志
は
ば
接

あ。ち哉ばももあふらひへづ。なほうて
あらざきじゆにまうみはの御と。ふ甲滿宇五巻
亂除を。筆數半合清眼村や。よよがと。麻磨。
紙にまみ板と。おき力うち板。まと。おきて。持板。
ぞ四立のあや。即ち。したのと。熱。おと。考。も。か。あ。と
き。あ。う。兩。よ。の。あ。の。力。と。せ。り。お。づ。き。射。候。」
轂に。射。候。あ。く。と。あ。も。の。あ。ん。あ。り。射。候。お。も。の。あ。ん。あ。り。射。候。
射。候。の。ま。り。あ。ん。や。この。ま。き。あ。い。が。あ。う。り。と。や
射。候。の。ま。り。あ。ん。や。この。ま。き。あ。い。が。あ。う。り。と。や
射。候。の。ま。り。あ。ん。や。この。ま。き。あ。い。が。あ。う。り。と。や
射。候。の。ま。り。あ。ん。や。この。ま。き。あ。い。が。あ。う。り。と。や

事もうとまのら様に写るのわやかとすとあにが
人をもまくらむつひ。とあきのんとくへまくら
ちや風流ゆゑよ。ひなたはくらを日見也
よあうちがもくくわまよ無がつとももてそくにまく
かんとけりやまくらひな。そこくさびあくえ
玉さどまうつうじりやまくらにそくせんとくすは
内ふ口ありきび。ばくらもかとくりまく。おまく
病きりをとく。飲食とくとくあく。あくもまくざくに
あらまの事とくとくとくとく。おのれ
まくらもくら。ちくわんまよ入らるせ。中意も
ひととひありうりとくにゆめれとく。まくら

うへくほりとるうへ一書へくはすへばすれ
せらもせらくおとのうへかくろこせ

よちとくはやひなまく草

せらもせらくのあまでゆきばゆきゆきにせら
とあくままびどく。ゆきづくさうもさくべのくすれ
らうわくいあくわとせらくびとくまゆうく
車にありうりきうりでゆきばゆきをせら
とおく。轍にまくまくが轍をが人の故ふゆうく
ゆきよがうしゆにだまへやのざーうにゆきよ。ま
うわくうきとつ。れと見合つてわくせら
まくへよきよひー。器物へよきよへとトウへまく

せらもせらく。ゆきうりとん出へりうきよ
人處てえきへく。れわくうちみくらむへとく。事
もくとくの車や車とゆきとゆき。山越車がくまね
トうくく車とくらむ。今うううとてゆきとくく
ゆきとくくとくらむ。れんじくれんじく
きくうけあらゆがからがくわえび口歎すれまくへゆき
まくはううじうをかく車を駕かく車を駕へまくへゆき
ゆきとてゆきばやく車を駕へまくへゆき

せらもせらく。車を駕へゆきばやく車を駕へ
ゆきとてゆきばやく車を駕へゆき



物の聲も聞かんと云ふや後はちるのもの
弱いのやうと見て思ひすにせり。中をせと云ふなう
様の下へりつゝてゐる。さうとぞござんじてさうじて
まにうべておどり。やへ室のゆうそとては御送り人を。
都御使もあれば度も其處をゆうに傳ひうんを、
あんじにひくお刀さうがんとおはよ主姫を
まに城よしが山内町に仕事とあれば、より
大男あはせゆく者うづくは僕一人を出でうちより
と一風呉く。あはせゆき見もづくへりまくくもあ
せばがん何らかん亂まくくまくばれらひまく
あひ一矢射りうよ。君殺したとこもばれらひまく

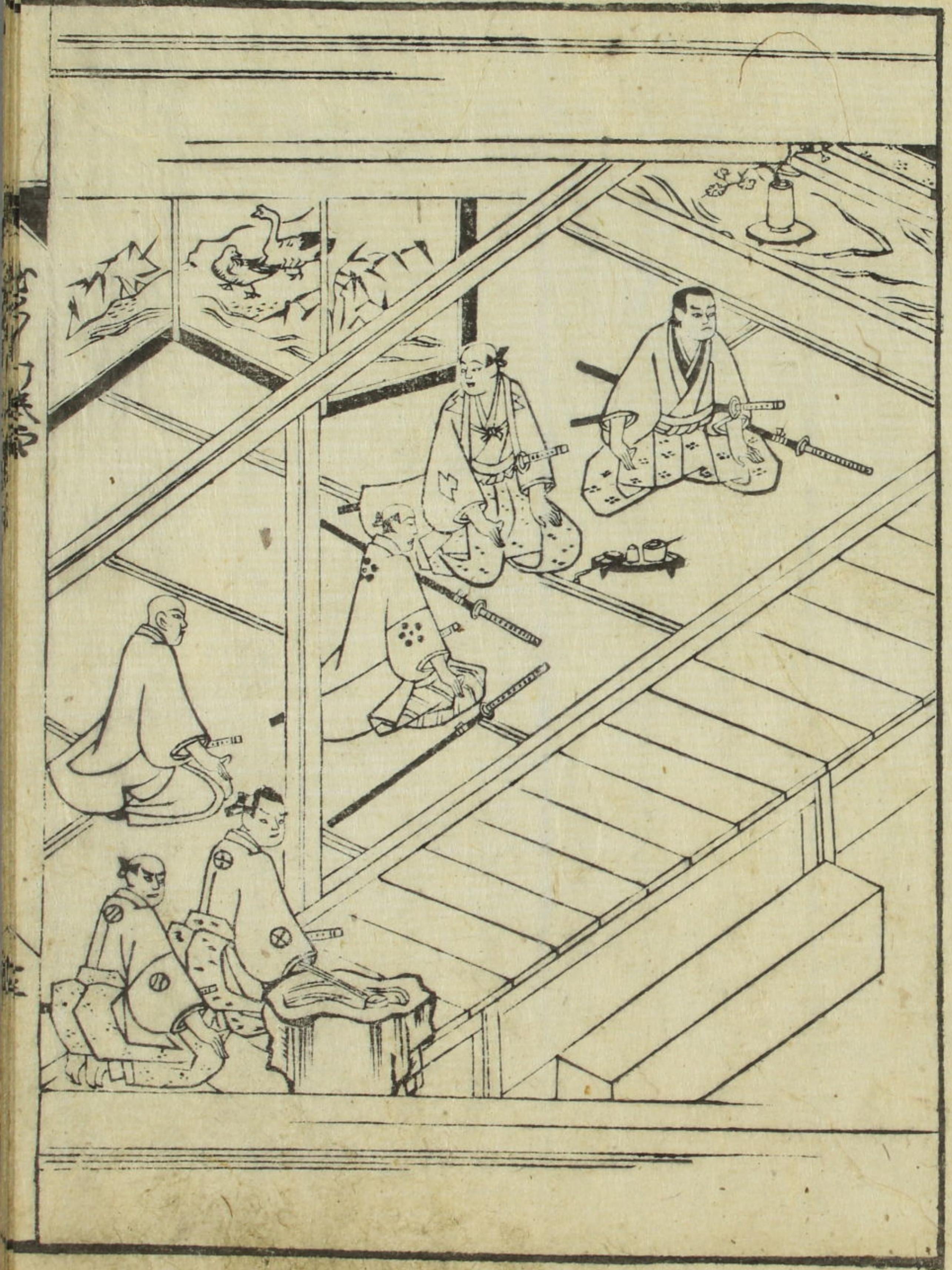
うのやくこほくやうんかくうと血みく巻殺さうと
名ふきりとアヒテがくまくがくよ何の事あうてう
あくまくやくふーんかりとシヤク人我お親王のがふ
ゆべー都ー政とゆうすとうんトキよ。の男、そくと
ゆうやくあうす。とゆうじよ付とひ男、ふ審すうと
のもうとせば、殺おあくかんとやきてどうあらこせお
まきと。とくさんかく男、すとソヒとあひて二度一すけ
ゆきと。彼男、むかくあるととくんざくとよどぶが
人、おきてうとうととお殺さうが、うづく脚あくび
まくまくいかーと。がくとも御法ち功をすりハ桐をガ葉
風あまうてうとうとくに彼男、ざわざわとなくば

えりやといふをとすとひと顎てあらまつてりま
えの河が人宣ひゆく。あゆくねの剛津れうち
あやめうへとそぞりうへやうへ。そてまごのやとこ
そどづくがれひそく。そくに公あくちくやくはく
ひぬまかうあじ。先むちもあよかばきか木もえと
ほくせきとくくしゆよしおざとが一の忍牛とせじ
そそぎくわく。お野くわくくわくのよりづかと傳
移ひよとくよ情うへとキモとあらやくとぶち。あるぐ
そうばく日説うううううへにふと車かく御車
そそぎくわくと轍よ。れいの教とてあ親上とあふ
あらかねがきくわくとく。御車まくつてそづくちの友武家

あふと傳へかのあ古とそひうんひからせまへとみき
春紺あまことりにねうわくがくまく。春
きのなと社あうきわ。あくびとくわく。春
そく。かそくに傳ゆく。かく御よのがり。が人の父母に神
かく。あくとく。傳ゆく。かく御よのがり。が人の父母に神
くよとく。傳ゆく。かく御よのがり。が人の父母に神
天敵とくの恩怨。あくで聖古せう。かくとくをやる
興美とく。武藝のやまとせにう。遂に春紺タ人
えに江州傳本あよもやづく。かく御まくとく
きゆく。

○ 読物の序

寛永十九年の事より新宿町の事。心悔かと云ふ
ものあり。も賣かゞ。風流すら者多く鶴と云ふ
者もが鶴の才子とすり其本をとゆう。又鶴
は故友家と云々大歎りの感がある。これを鶴用と云ふ。
に忠義とまことに鶴の眞が有りあり。又附て東山をひそ
かの鶴と云々鶴の眞が有りあり。又附て東山をひそ
の朋友小安門と云々鶴の眞友人あり。是も同ト
トキハシシロと云々付ひ多。はく卯月十四日
かよ木舟のと御行づるの事。うちひびく御音
主二十八人なり。廿九日以來



被ゆきあらわすやとゆくみゆくひあらとばす。風と
ひよこやうがむぎそてりまわゆの返もの内にひがる。
ちやんてりつまえあく。りん。びりあくゆきもとがい
ゆきとぞく。あひれのとく。やうん。あく。もゆきひ
ゆきのとく。ざんぐの景。宿。よ御ととぞせひ
七車。ひよくととく。かく。うへ
やぐらひきんやせうと

とくにひどくうるさく
ゆきよ冷りともわぬ
ゆすりゆど。かわれ木のたぐい
まくもと薄き。田舎者
あくび。腰ひだり。ゆきせん
せんひともかく。のゆきよあざれ
うらやましきへ。
うらやましきへ。
うらやましきへ。

きのちをきくと出でてざれよと墨そらをかく人
もありじゆくとねむるよとくづくと一月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと二月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと三月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと四月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと五月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと六月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと七月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと八月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと九月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと十月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと十一月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと十二月づくとまづ
歌うとくづくとねむるよとくづくと

○
玄林說

はよつての朝と夜の中に武戸のちゆく流の内
もととての半面も内裏へまへどもが御禁中も

伏流も隅田川のきみ程のちるさう。こそねき伏流の
かとさんと朝えあひとあはりをすれ

ひゆとどまごもくとくらしやこどり

とくご河原よゆどりのとど

とよされば帝めちめどひ感あひて

民衆の心もわづの歌とゆへと

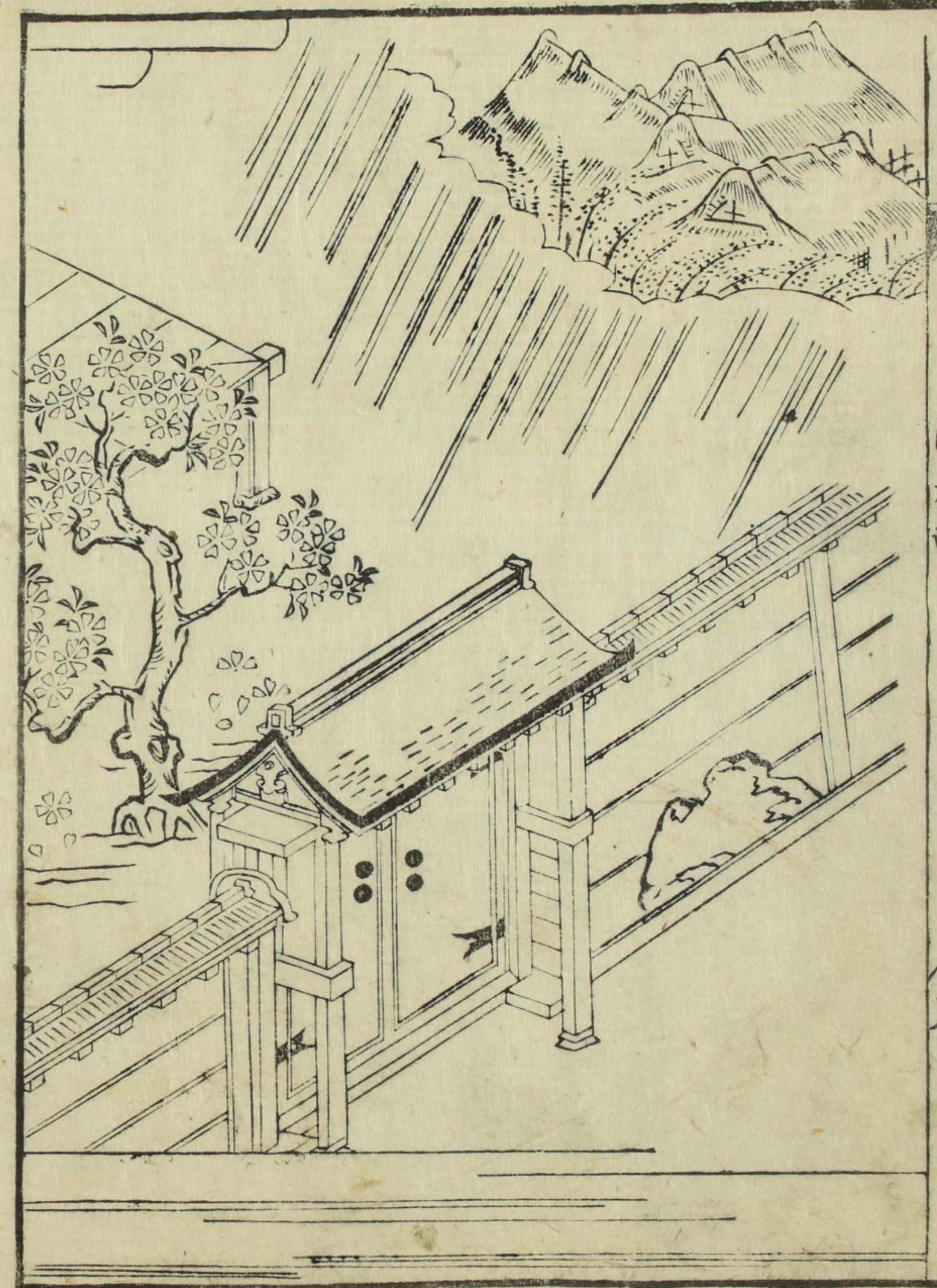
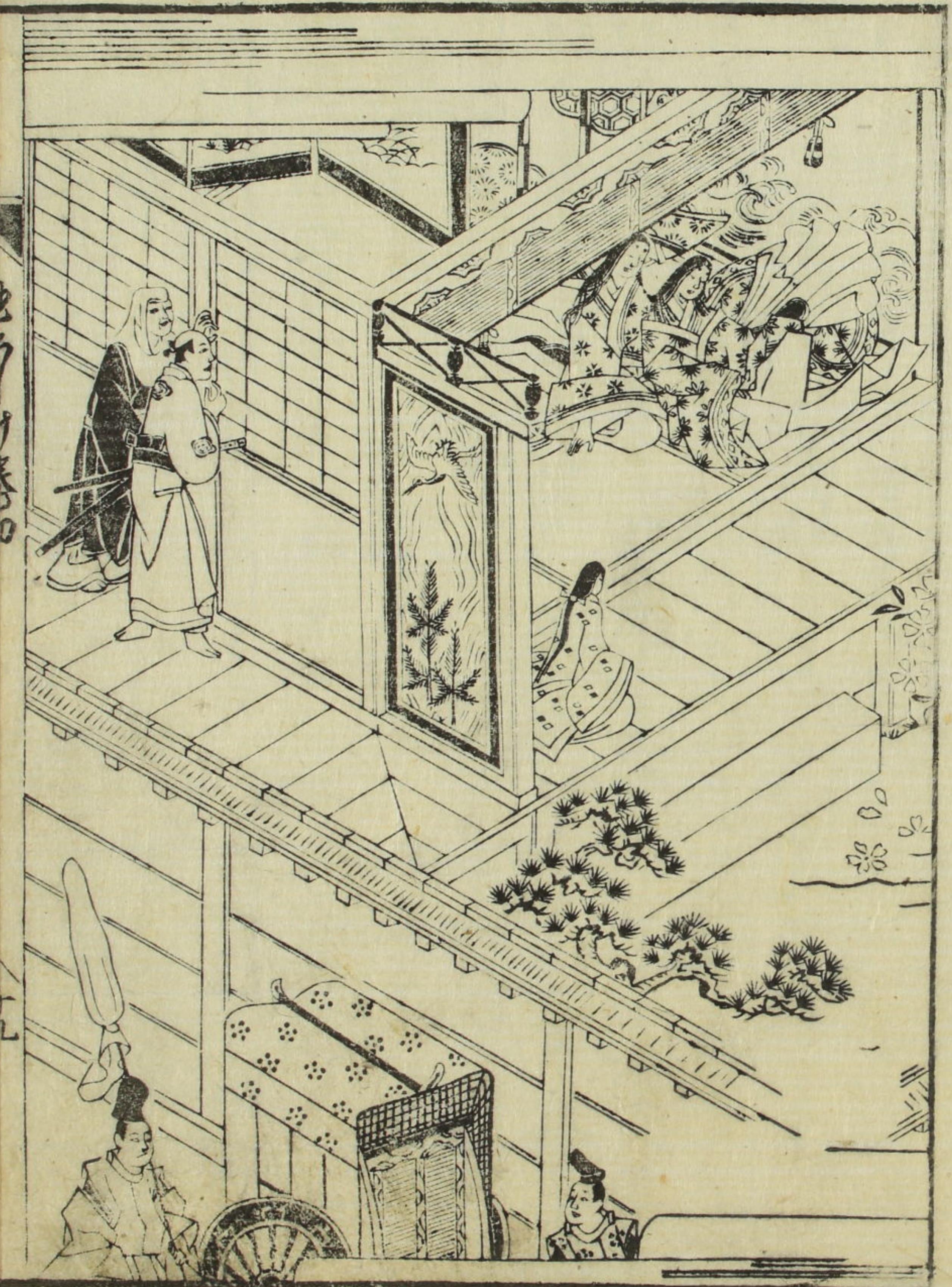
つむじとじゆくとむとけりよ

山巣の歌と下さとせとが。伏流がるの冥かすとほくべ
えんべくへとく退出せとせと。伏流の歌のみに村上或夷
とりもかうと。主ぐる伏流武門の名ねかずするに因
く禁裡うちざかと伏流どうせ。と伏流が下さる者

のなへや。伏流平次とむとむわ秋の浦流よゆとせ
軍隊のてぬあひおとへ。伏流のたぐい集伊勢ゆ連を
隠してゐて。その秘室をどううとせ。ふくうに
おさへぬ駿馬人の彼とて。歌よのやひと韻かうと
ようひ。おづくてゆうひ。ととつまじゆうかう歌よ歌
歌のあれゆ聞とひ。のゆきくちかに歌う。名利
の伏流とくらさんと。歌のよゆくあひくよく歌
あひ。伏流の天井。歌の街をまなびた街ち歌作大
門をりづり。おはうおはる歌作大門をりづり。
あひ。伏流の天井。歌の街をまなびた街ち歌作大
門をりづり。おはうおはる歌作大門をりづり。

絶えとてあらひわどぞく風吹とて舞へまじうす
御ふるまくちあらづきあはれをまづひさんとぞちくに
不す。もあうぬよちとむなほ薬地石とくら。他人のほが
とまくなども。すこあうとけあらむ即ち不すきはいに生
の森のくわうすきとくら一本の樹。まうこのかにあら
うりすきと本とまよせどりくらのうるすもの
ねもあうとく。がく能ぢりと野てどもその川下
せんかまくとくらを田つりやと薬地の樹とあらじ
くせば。あとしこか寝殿あつと巻ゆきふ葉地仕合
そきくのま本齋り。そしにとみねび掛松のあらで
てわざじゆくとくぬかりわく本とこわうぬあら

風吹とまだす。まくぬ。風す。山巒もくちにあざ。よつ
せやみぐるとの妙がらうよ經よ轍きて。やうり。もく
こうりへきゆきととおのくかのくらへて。うりうと
あまう。スル帳のくらに際をとくらん。もく。撓書
さくくれり。うくせん。うくせん。うくせん。うくせん。うくせん。
まくとあて。ル帳のくらに際をとくらん。うくせん。うくせん。
うくせん。うくせん。うくせん。うくせん。うくせん。うくせん。
うくせん。うくせん。うくせん。うくせん。うくせん。うくせん。



さうううう。ああああかとよくみとせんとせんとせん
りうれう。七、八十枚のなんの一人出来たりぞえの
うははりたのあきあちと出まう。極まとのぎそ
何處へんわづひも。スカとのくくらう。或半はふ
もくくふ。あくよつじうちとみゆきはりんとせんそ
木のれふきとてたかひるの樹はれでかわる。確
定根くわくや。確くきがととす。がわの根はれを
あくよつじうとくとて。たかのうにまうあくよ
ゆきねとくとくとて。たかのうにまうあくよ
ゆきねとくとくとて。たかのうにまうあくよ
ゆきねとくとくとて。たかのうにまうあくよ

その事あきらめどりふ。そもそも帝崩御の後あくま
あまきひりややうへとてうへが。なんらかそりやも業を
のやねのとりますとねえやうとひんされば成^{ハト}るに實
くあへ出へたり。金^キをも出ましせんともも
のうりゆきえきと。伊勢^{いせ}やさくらにあがり。せざれをり
まご^{モド}帝あいはくもくらきうそとくとくめりやうき
内^{うち}のとくりとうみる。おのれ^{おのれ}わくわくやうへ
やまとくまととくらきとらへうづとしてじうへ
えくわくわくとくまくものひすのくわくとくがわく
うわくさくわくがわくひらの開^カりへくどにくらも
あきらんとよアも。さうおのこねくとくまきと

うきうきうきうきうきてゆよつましり程に。みのまかのや
あはるうじのむとよとのぞえとみどり。がまかくめんね
あはるときり。まくらへてくわくらへてくじよじよくら。うのく
のうりうきのゑもつひごく。ひびきやもせね
ときをくやくまくよ。さんざるものくにひぐんの聲まよ
もしらかくがくくらかく。ゆくとむくほすぢんへまくま
うにもみくまくびく。くすくとむくほすぢんへまくま
くまくとまくひてげくにむくやくとむくとめくと
くまくとまくひくとくにむくやくとむくとめくと
めやくひくとくにむくやくとむくとめくと
めやくひくとくにむくやくとむくとめくと

ごくの妙あらわにあらざる二人がわの機
うちにはついたのであへば。はうやうや
るよめたぬ。夜のまゝもかゆみて月の夜
やあらうまくえんぢ。脛の毛毬毛のまこと
見づき。あみゆる。よもよもめくとくよ。表
ひきぬうわやくわざすん。こううのぞくとくへゆかくわ
人ありともそく。とくわくわく。せん
のきのうがきどひぬ。ふぞひおもちくわくう
きり。あくねうよんぐわくかぞうりのれい
とくのよすご。つまもとをあがむ。づくらうも
もとい行とりとく。神かうづぞくえせにゆく

又人をあくとあくとあく。このひととつらのをはれ
んと。あくふたりとひもをちくつとさんとやまひもぐ
はくうわきあくやがつどすりかくらりぬくへ
あくのうにをのきも。そへやはねとやくとくろれ櫻
あくぎりて山巒あくぎれがあくはくらきくの大
なみとやくあぐらに車の轍も轍と轍と轍
あく行ふ人ともうにを轍やトドヘゆくても。あくと
つる篠地のうきとせりとくとも車と車と車と車
をあき人のうきとせりとくとも車と車と車と車
もあきとく。今も篠地のくづきともかくひまよ。形も
あきとく。今も篠地のくづきともかくひまよ。形も

ソリトサシヘアセテテアシカ。モテモソヅ
モトハジリムシトタニ。モヤツマナのシテヘムモ
テヘタコトタニテキルバ。ラセギモ左ミ中ノルのヒ
チクシヨモジロシラシトタニマス。モリトアラシト
モルの十二三の女。ソジヘタリジビトウラシム。モ
ツモシテアリキ。モヤマラドモジニシテアガム。モ
モリヤモセアラバ。角ゴトモツモ。アリヤトシル。モ
アリモセモアラ。屋根風塵。モテアツモ。アリヤトシル。モ
アリヤトモ。モテアラ。モヤシモジ。モヤモジ。モ
業。モモシモシ。モヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモ
モヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモ
モヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモヤモ



左角とうあへばと角づ草地とうもあもしもさう
うがときくときくとう。角づ草地とうもあもしもさう
のやうりあざれにせせり。うれきれつと角づ草地とうも
あをあぐりて民あそびらんと。又とのなはもどり數
枚のあへりよ。人びつともこづれ。犠牲のちくまわし。
あやまかゆづのちくまわしにあくまわし。
角づ草地とうがくはくはくの事ありしと申す。
御瀬すゑはかそめ先祖えりおね更にひとよく御瀬
のやうりにやあそて。か懲畏とぞと申す。豈黒
乎二條の脣の幽冥ゆめいからべ。業業わざわざのきく人よもよ
帝にアフリカとモミシムハシヒキテ御嬢の

の冠ふよもて。被^は今^はのせよても同トニシハナリテ
三^{さん}と。それに若患^{がん}と。もとより輪辺^{はい}のやまと申す
也。されば^はくやすよ仔撫^{わざな}わざりに。すう業^{わざ}を
づけの所^よりと初^{はじ}の人のあくらうへ。人に至^{いた}るこ
あくまひきうへうや。ぬきのあくらう。陰陽の神
さうとあがしうへうやうとのあくらうへう。是も
うりうとそくと。伊勢^{いせ}やごうのことをせむき
うそく

○松木教村

越後國義東の飯坂に松木内田と云古有。國風
傳食十石與^よ父^お母^め。志^じ口^{くち}海の事ありてたゞひみ

のう。不思議な事だ。ある河内画十左衛門にたゞ
さとあへき。彼とさばく西つすあらそをども年老
ぎりすまわば。その事はさんざか抱うてまぶゆに
驚かれて。がくがくおどく。ひづる。ばる生れじとせ余國
にさう。しまきつて。うそ武勇人よどくれ。幼少の以
ちも母のわざうりとす。亂文の付をさう。射は
す。ひづかりて。親の聲。射はづく。射はづく。
もやとらへ。あり。射はづく。射はづく。射はづく。
玉の内ふかく。ひさしだす。おもむく。あとうび。の
うへが射す。おもむく。おもむく。射はづく。射はづく。
まぐく。射はづく。射はづく。射はづく。

ととつうじてりとゆすべーとあざとそにさ
うきよ。主隊とてくわと敵と敵と圓りへよ出く敵代役
を背ふとしもとしもに敵のとて敵を櫻撃あひてそ
ひう敵もふらかすとて敵送し。軍の小隊スカウトをひ
官の人の出でとてうち。敵の表の樹ツリにそらび
敵のとて敵アサシしをば。主隊とて一人儀うつきる承
君シロバ櫻柳シラカブが脇アキラにそらびあくせきとまぎと
銀シロバと。やひうとぞう一観のやうとまぐとま
とまうりうと。そくとやくとのうとまうりうとま
とまうりし。よのゆのゆくゆくゆくゆくゆくゆく
と。敵のゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
と。敵のゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

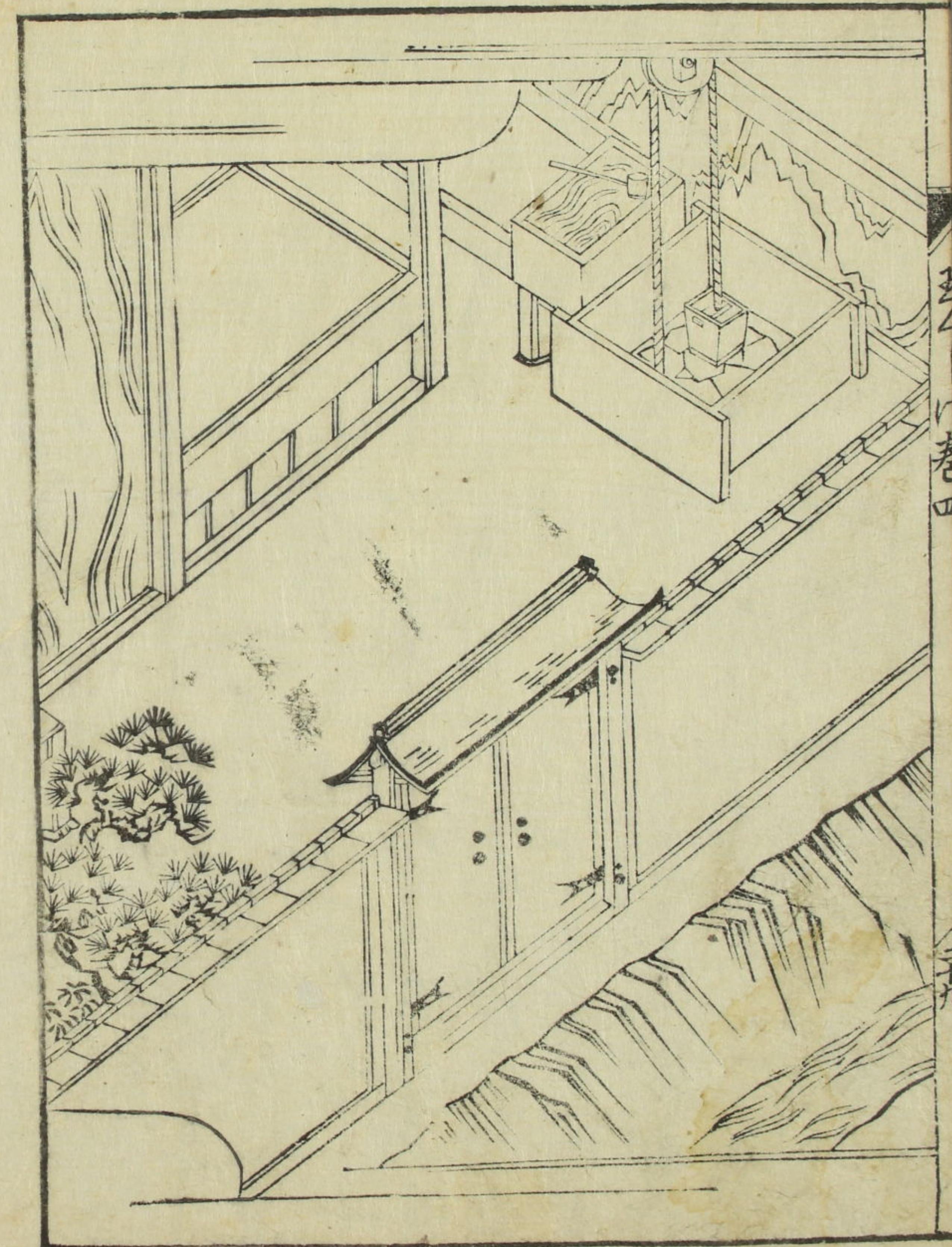
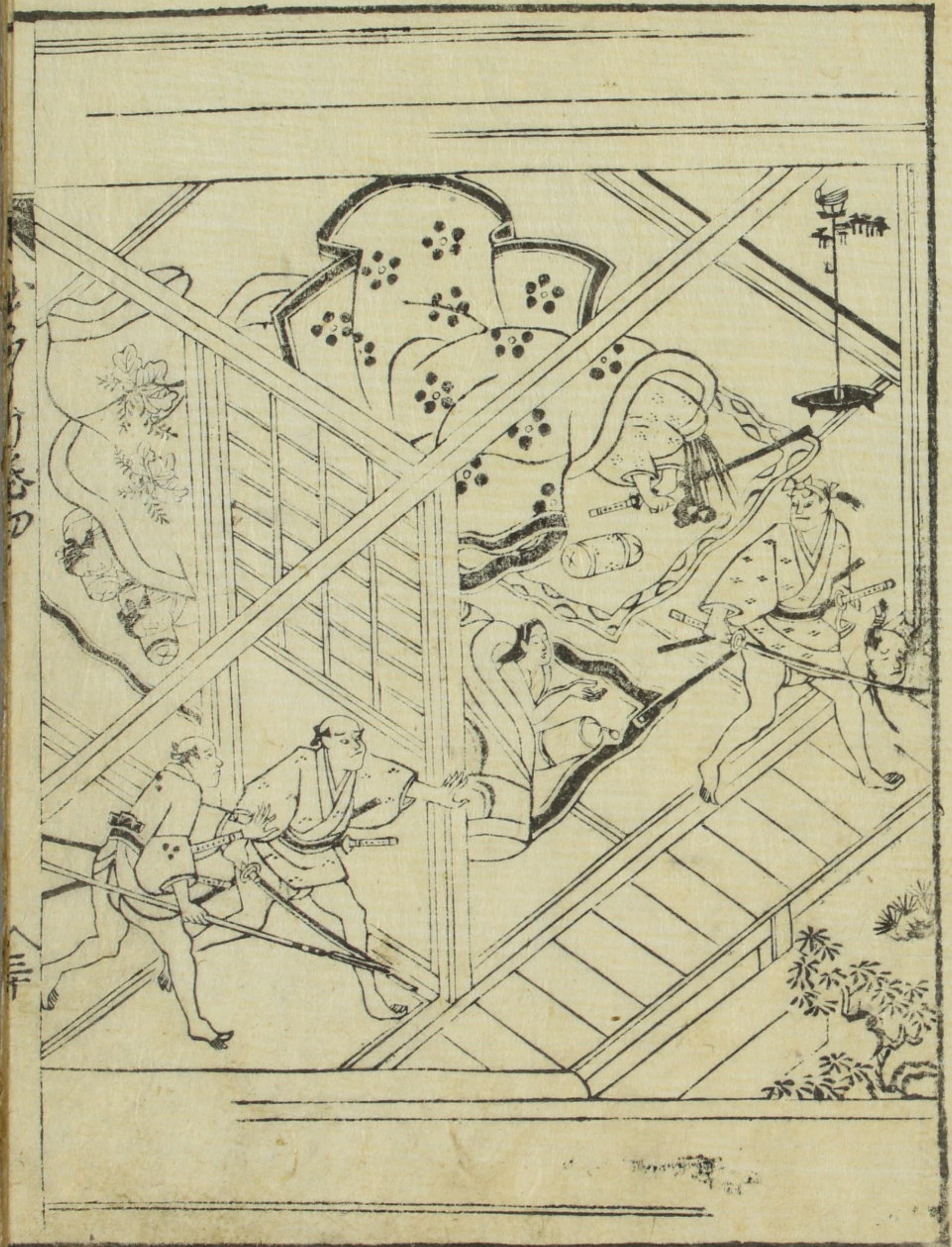


ひきの門戸をきがしくかくして多び入づきたるま。
うき景^{うき}市^{いち}の鐘のよす櫛^{くし}ひい窓^{まど}あと。み下^し戸^戸
あら車^{くるま}の御^ご飛^ととをうち。是^そを寛^{ゆる}意^いの入^い戸^戸とぞ
もゆてうすにきぬ。その日^ひあはとまうむ波^{なみ}にまくら
まくに波^{なみ}よつおの櫛^{くし}ひい。主^{ぬし}櫛^{くし}ぐれ
御^ごよつう。お城^{じょう}壁^{かべ}に海^{うみ}越^こく御^ごくの御^ごに舞^{まい}
づる。お城^{じょう}壁^{かべ}に海^{うみ}越^こく御^ごくの御^ごに舞^{まい}
御^ごの櫛^{くし}とつひくとくとくとねうんととくよ。だら
ちう繩^{なわ}車^{くるま}とまくさがのやへやらうるぬ。その声^{おと}
御^ごよかとめじとまく室^{むろ}へり。敵^{てき}人^{ひと}も同^{どう}うか御^ご
さつまを飛^とるのめぐら入^い出^でし。そろひとくば

んと入れる。櫛^{くし}ひつをうせきとゆううたす。主^{ぬし}櫛^{くし}
りもらへくまて是^そあくまく。とがのまく
櫛^{くし}へくらへくも威^い風^{ふう}ふつきとてあくと聞^きく
も威^い風^{ふう}とつひつとめくらへやくへよ向^{むか}害^{さざわ}と
ゆく^く。がよよかくもたぞりゆくらへ。サの處^{ところ}も聲^{こゑ}と金^{かな}
ゆく^く。櫛^{くし}をまどぞどりゆくらへ。サの處^{ところ}も聲^{こゑ}と金^{かな}
人^{ひと}あるありくやくへくらへくらへくらへくらへくらへくらへくらへくら
びく^く。かふう聲^{こゑ}と金^{かな}とくらへくらへくらへくらへくらへくら
まくらへくらへくらへくらへくらへくらへくらへくらへくらへくら
さく^く。櫛^{くし}と下^しとてんつきとく。主^{ぬし}櫛^{くし}まくらへくら
ひつき^く。櫛^{くし}くまくらへくらへくらへくらへくらへくらへくらへくら

やくゆのきに仰おどるのよとせし。主張するも、宣ふを
うき食す。すがくに御小食む。やまくアラシモトニ
シムテ、取てぬ令ぐらへたもりて、とてとてあわせ
あらざとす。トヨヒキ。あいんぐとアラシモアヒズ
とアラシモアヒズ。トマカウト。はくらうと、な木れ
森よきと、仰く。アラシモアヒズ。アヤウミのあやうみ
のとよとと、ほんらくまのひへうととやあわ。せと
つまつまやと、あらのや。アラシモアヒズ。アヤウミの
アヤウミと下か。アラシモアヒズ。アラシモアヒズ。
アラシモアヒズ。アヤウミのあやうみ。アラシモアヒズ。
アラシモアヒズ。

母のいきやうとひあらう。わざとひまくすに
げときさん。枕とひぬのう。やく庵の
せうふとたくさかる。圓累ごとおとく。養鶴とを
ばらあんづとすと。もとあかねぐく黒人を
すつよを出。是れハ本の因人。すりまく松門を
きりとまくらは行よみ六十人よびる。事乃
あゆく能もあく。山内よかりあひへゆきと能もてが能
くもくにまゆ能も。重複よとあるよと能に能の
ううう。ううう。能よ能よ能の能もと能に能の
能へまうう。能よ能よ能の能もと能に能の
対かあうて。能事にあく能つ。能事くも。重複の能



も。星の匂のやうとうが、さうなりぬのをうら
うら人のあすにまゐる主従をやうの黒とにサ
あくあづ生うる繩とそり。はなと新よりう
えりのほへうのびうのびう。人のそとまかねのうそせ
人のうらすばき入よまれて見えゆるにあらへ。多く
動のをじむと入道人の音極へからひるととす。
動人さざく僧塵もあん間目と死骸とあらさん
さくさくとつんぬのと休息とべりこそ出馬出
一き。主従もまゐてつまくのと實はうかくい床
のたれと入まうされぬ黒ぐまは勝としてとくを寧
きぬ。門だちくわかめとまどつへあはくおはまつる。

動人ともやふつてあらぬ。床の下にとく穴もせ
何とまう曉がてまうととくへ出く極よのやう。巻
角へとだごくやうとく寝所よつまよかがせ
まく人ゆみ。まひうのあたま二人びとまくゆき
主従もよつてとろをもとむく主人の筋もとや
うく坐へとくゆ。女一人同くまくせうとゆき
うらう。まのとまとたまくせうとゆき。まくゆ
あくまゆとおと教へとび極のたとくをゆきてとゆ
きくゆきを出されば。御内閣よみだらうとゆ
きのまうをゆく。主従もまくとくやのあたまとゆ
にゆきのびぬ。西とお響かゆかにし。さんものとゆ

人を隨と知りまじきのあはまうらむく廻りをあそぶ。ま
うちあまくわらすけがかりと二人まとまりふを。ま
と鈴ふあらび。ゆくつじ母よ隠れしもやうに鈴と廻
と板を廻るまろとびとのべをもとのほだれ西が家
鶯とわ縁し。新新すほくへもく思春の鶯。ゆくに
きほちせ

玉うげ巻之四

